

小学校低学年の部

最優秀賞

ばばのおんぶ

松陽小学校 三年 立崎 凜太郎

ばばがぼくをおんぶしてくれた。
ぼくがないたとき、
外にさん歩にいくとき。

ばばのおんぶは、あつたかくて、
気持ちよかった。
ばばのせなかは、おおきかった。

ぼくが一年生になったら、ばばは、かみをそめた。
せなかが曲がった。

そして、ぼくが三年生になって、
ばばは、いなくなつた。
ばばのおんぶが気持ちよかった。

講評

ばばのせなかのぬくもりを感じながら、ありし日の思い出にひたっている凜太郎君のすがたが目にかんできました。
とてもととのった詩(うた)で、しくみもしっかりしていて感心させられました。「ばばはいなくなつた」「気持ちよかった」が、特に光っています。

優秀賞

見えない思いやり

北園小学校 三年 工藤 陽大

朝早くの官庁街

道路ぞいで おばさんたちが

花の手入れをしていたよ

犬の散歩をしていたおばさんが

タオルでベンチをふいてたよ

一台一台 ていねいに

花の手入れをしていたおばさんたちも

ベンチをふいてたおばさんも

ぼくには キラキラして見えた

大好きな官庁街は

見えない思いやりであふれている

そんな人にぼくもなりたい

講評

官庁街通りは「日本の道百選」に選ばれた十和田市じまんの道で、桜と松の並木と四季のうつろいを見せてくれる花だんの花々が、通る人々の心をいやしてくれています。そしてそれは、市民の善意に支えられているのですね。「見えない思いやり」を見つけた陽大君のすばらしい目にはく手をおくります。



おばあちゃんのみそしる

北園小学校 三年 竹ヶ原^{たけがはら}麻^{あさ}陽^ひ

「おみそしるのむか？」

おばあちゃんの家にとまるとでてくる
おいしいおみそしる。

にぼしでとったいいにおいのだしに、

とうふとわかめがはいった

世界で一番すきなおみそしる。

こんど作り方教えてね。

つぎはわたしが作ってあげるよ。

講評

とうふとわかめが入ったにぼしだしのみそしる、わたしも大好きです。麻陽さんは、世界で一番すきなのはそんなみそしるを作ってくれる「おばあちゃん」なのですね。「こんど作ってあげるよ」に麻陽さんのやさしさがあふれています。



思いやりのかさ

東小学校 三年 斗^と澤^{ざわ}悠^{ゆう}我^が

朝 お兄ちゃんが

雨がふりそうだから

かさをもって 学校へ行った

夕方 お兄ちゃんが

雨にぬれながら

かさをささないで 帰ってきた

お兄ちゃんが

「かさがない人にかしてあげたんだよ。」と言った
ぼくもこまっている人がいたら

お兄ちゃんみたいに

かさをかしてあげたいと思った

講評

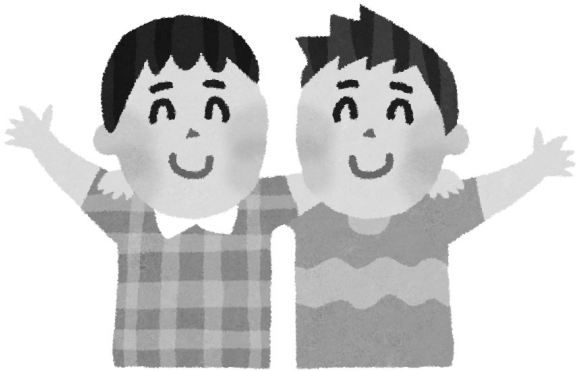
「こまっている人がいたら助けてあげたい」とだれもが思っていることですが、実行することはなかなかむずかしいですね。それにしても、悠我君のお兄ちゃんは素晴らしいですね。自分がぬれるのをがまんして友だちにかさをかすなんて、なかなかできないことです。お兄ちゃんにはく手！



ゆるしあいも思いやり

北園小学校 三年 新^{あら}谷^や央^{おう}士^し

友だちとけんかをして
心がチクチクした
おたがいが
こうかいして
あやまることがある
ゆるしあいも
きつと、思いやりの
仲間だと思う



ほんの少しの勇気で…

西小学校 三年 向^{むかい}中^{なか}野^の叶^と聖^あ

毎朝登校で
同じ時間 同じ場所で
いつものおじいさんに会う
はずかしくてなかなか出来ないあいさつ
下を向いたまま 通りすぎる
次の日：
勇気を出して
「おはようございます!!」と元気にあいさつ
したら
「はい おはよう」とやさしい声
ほんの少しの勇気で…
ぼくの朝は変わった
今日もがんばろうって 力がわいた



ぼくのじいちゃんとはあちゃん

南小学校 三年 工^く藤^{どう}新^{あら}太^た

ばあちゃんはやさしい
いつでもやさしい
いるだけで安心する

じいちゃんは強い
おとしよりだけど強い
やさしいところが強くかんじる

でもぼくはまもってあげたい
ぼくはハオ
じいちゃんばあちゃんは
七十才以上

じいちゃんとはあちゃんには
ずっとげんきでいてほしい
ずっとずっと…。



いとこ

北園小学校 二年 野^の崎^{さき}雄^{ゆう}大^{だい}

七月に生まれたぼくのいとこ
とおくにいるから会えないんだ
かわいいだろうなあ
小さいだろうなあ
だっこしてみたいなあ
ミルクもあげたいなあ
ぼくの名前もおしえたいなあ
わらってくれるかなあ
ないたらどうしよう

あーあ 早く会いたいなあ





おばあちゃんのやさい

深持小学校 三年 中野渡 創太
なかのわたる
そどう
た

ぼくのおばあちゃんは
いろいろな野さいをそだてている
春にはスナップエンドウ ブロッコリー
夏にはミニトマト トウモロコシなど
ぼくの大すきなものをたくさんそだてている
しゅうかくはぼくの仕事だ
がんばるぞ



わたしのおねえちゃん

南小学校 一年 野村 美月
むら
み
つき

わたしのおねえちゃんはやさしい
ピアノがとてもじょうずだね
そしてたまにおこりんぼう
でもピアノがじょうずなおねえちゃんは
すごくかっこいい
またいっしょにピアノひきたいな



小学校高学年の部

最優秀賞

そばにいるよ

ちとせ小学校 六年 關 せき

美 み
月 つき

病気で手術をしたおばあちゃん入院してから足の筋肉がおちて長く歩けなくなってしまったでも大丈夫私が手をつないで歩くよほら いっぱい歩けるでしょいつでも私を頼ってねずっと長生きしてねずっとずっとそばにいるよおばあちゃんの手あったかいね大好きだよ

講評

入院して足の筋力が弱くなったおばあちゃんにとって、「大丈夫、私が手をつないで歩くよ。いつでも私を頼ってね。ずっとそばにいるよ。」という、美月さんの言葉ほど嬉しいものはないと思います。美月さんのおばあちゃんを思う優しい心は、周囲の人々の心をも温かくしたのではないのでしょうか。

優秀賞

思いやり

北園小学校 六年 太 おお
田 た
唯 い
楓 ぶき

夏休み前の最後の日、小さな一年生が両手にたくさん荷物を持ち、困っていた。ぼくは、勇気を出して「持とうか?」と声をかけた。一年生は笑顔で「おねがい。」と言った。一年生の荷物と、ぼくの荷物で両手が痛かった。一年生は「お兄さん、ありがとう。」と言った。手の痛みが急に消え、なんだか心がくすぐったくなった。

講評

夏休み前の最後の日、大きな荷物を持つ一年生を前に、勇気を出して声をかけた唯楓さん。二人分の大きな荷物が手に食い込んで、痛かったことも、一年生の笑顔の「お願い。」と「ありがとう。」で消えましたね。重そうだな、持ってあげようかなという一年生を思いやる気持ちが伝わってきます。



言葉のパス

三本木小学校 四年 大^{おお}村^{むら} 暖^{はる}乃^の

失ばいがこわくて
おこられるのがいやで
動けない自分がかっこ悪い

「失ばいは上手になるチャ～ンスー。」
そんな言葉のパスをくれた先ばい
いつも心の中で、かみしめている言葉

今度は自分がパスを出して
バスケ部のみんなの心をつなげていきたい



講評

静かに自分を見つめ、内省をしていることがすばらしいと思います。今までこわいと思っていた先輩がかけてくれた言葉が、自分を支えていることに気が付いたのですね。今度は自分が言葉のパスを出して、みんなの心をつなげていきたいという決意が感じられました。



三倍の幸せ

南小学校 四年 竹^{たけ}ヶ^が原^{はら} 彩^{あや}人^と

おすし屋さんで
大好きななつとう巻きをたのんだ
大好物だから
一人で全部食べようと思ったけど、
三等分されていたから
お父さんとお母さんにも分けた
みんなで食べたら
おいしさも喜びも三倍になった
一人じめしていたら味わえなかった
温かい気持ちを味わえた



講評

三分の一のはずだったおいしさと喜びが、逆に三倍になったことで、ほんわかとした温かさと幸せな気持ちがプラスされたように思います。大好きななつとう巻きが三等分されていた時の「どうしようかな」という一瞬の迷いも、みんなで食べる方がきつとおいしいという思いに吹き飛びましたね。家族の笑顔が目に見えます。



母の仕事

深持小学校 六年 中野渡 なかのわたろ 咲 さ 希 き

私の母は仕事で利き手を怪我した
ご飯を食べるのもお風呂に入るのも大変
今までしてくれた料理やそうじ 洗たくを
家族で協力してやった
毎日一人でこなしている母
怪我が治っても手伝いは続けるからね



小さなお客さん

南小学校 四年 一本松 いっぽんまつ 拓 たく 真 ま

ぼくの家のがんかんにやってくる力エル
毎年一ぴきだけやってくる
雨がふるとやってきて
雨宿りをしているみたいだ
かべにはりついたり
つかれてくると
インターフォンの上で休んでいた
おもしろい
雨がやむといなくなる
夏になるとやってくる小さな小さなお客さん
また来年も来てくれるかな
まってるよ





マスクで隠された明るさ

藤坂小学校 五年 小山田 おやまだ 虹 こ 胡 こ

コロナになってから
マスクをはずせるのは
運動の時と給食の時だけ
声を出して話ができないけど
友達の元気な表情が見えると嬉しくなる
初めて会った人が マスクをはずした時
「こんな顔だったんだ」
とびっくりすることがある
早くコロナが消え去って
マスクの裏で閉ざされた明るさが
戻りますように…



ひとばんだけの家族

南小学校 五年 川 かわ 村 むら 祥 しやう 矢 や

お母さんが持ってきたダンボール
開けてみると
迷子の子ねこがぼくの目にとびこんできた
「こじろう」と名前をつけた
ぼくはたくさん遊んであげた
ごはんもちゃんと食べてくれた
お別れの朝
涙がでてきた 止まらなかった
こじろうとずっと一緒にいたかった
さよならこじろう
新しい飼い主さんに
たくさんかわいがってもらってね



読み聞かせ

四和中学校 三年 泉久保 隼人
いずみくぼ はやと

小学生の時、読み聞かせをしてくれた中学生。
読んでもらうばかりだったけど、
今度は読んであげる番になった。
「読んでくれてありがとう。」
と笑顔で言ってくれた小学生。
なぜか心がぽかぽかになっていた。
あの時の中学生も
こんな気持ちだったのかな。

講評

小学生の時には気付かなかった「何かをしてあげる喜び」が、
中学生になって同じことをした自分に分かるなんて、素敵なこと
ですね。「ありがとう。」には、心をぽかぽかにする力があるとい
うことが改めて分かりました。

